

令和7年度第2回広島の拠点性強化に向けた懇話会ワーキンググループ会議 開催記録

1 開催日時

令和7年11月19日（水）14:30～16:00

2 開催場所

広島市役所本庁舎 14階第7会議室

3 出席委員（順不同・敬称略）

宮地 宏	中国経済連合会常務理事
奥野 泰識	広島商工会議所産業・地域振興部長（植野実智成専務理事の代理出席）
木村 康宏	広島県経営者協会専務理事
前延 国治	広島大学オープンイノベーション本部地域連携部長（津賀一弘理事・副学長の代理出席）
家尾谷 成宏	㈱広島銀行公務営業室長
松本 智寛	㈱もみじ銀行営業統括部長
有賀 正宏	㈱日本政策投資銀行中国支店支店長
武市 浩二	連合広島西部地域協議会事務局長
山田 知子	比治山大学教授
脇谷 直子	広島市情報政策アドバイザーボード委員（広島修道大学教授）
村上 慎一郎	広島市企画総務局長

4 議事内容

- ・ 第3期広島広域都市圏発展ビジョンの策定

5 主な意見等

(1) 広島広域都市圏の目指す将来像について

ア ローカル経済圏の構築に向けた取組の加速化

- ・ 圏域内には様々な企業があつて、オンリーワンの企業も多い。そういった企業を支援するとともに、広島にはどういった技術があるのかといった点を発信していくことも重要。若者が地元企業のことを知らないから、大都市圏で就職するといった面もあるのではないかな。
- ・ 観光面については、広島は海外からの観光客が多いが、宿泊日数が少ない、観光消費額が少ないと言われている。広島が目的地となり、圏域内で周遊してもらえるよう、今後更にプロモーションに力を入れる必要があるのではないかな。
- ・ 地元中小企業が取引先の大企業に頼らず主体的に成長・発展できるような経営・企画能力への支援が今後必要となってくるのではないかな。

- 人手不足等により、変わっていきたい、チャレンジしたいという企業が増えていかない現状があり、若者が帰ってきたいという意識醸成につながっていないのではないかと考えるため、そういった企業を増やすといった観点の施策があってもいいのではないか。
- スタートアップを目指す企業と既存企業を連携させるような取組も必要ではないか。
- ローカル経済圏の構築に向けた取組を加速化するためには、企業が何を求めているかをもっと深掘りした方がよいのではないか。
- 「としポ」について、使う人のメリットや行政が「としポ」を推進する目的をもっと明確に発信すべき。
- 人口減少により利用者が減少しているというジレンマはあるが、公共交通網の充実・強化には引き続き取り組むべきだと考える。
- 交通の利便性について、以前は物流に大変時間がかかっており、広島での生産活動に支障を来していたが、道路が整備され、現在では大分改善してきている。そういった改善状況を見える化して情報発信していくことで、広島で生産しようとする企業が増えていくのではないか。
- 圏域には中山間地域なども多くあるが、人口流失に対しては、そういった地域でいかに働く場所を確保していくかも重要ではないか。
- 人口が減るとマーケットも縮小する。そうした中で企業を呼び込むことは難しいので、現在の経済規模を維持するため、圏域内だけではなく圏域外を視点にした取組も必要ではないか。

イ 圏域ぐるみの定住促進

- 圏域内市町間での人口の奪い合いにならないよう、圏域内での公共施設の共同利用や利用料金の平準化にも取り組むべきではないか。
- 全国的にも「若者・女性」というキーワードが取り上げられているが、様々な意見がある中で、ビジョンにおいては「若者・女性を始めとする多くの住民にとって魅力ある圏域」を目指すとしており、若者、女性だけではない点を強調していることは良いと考える。
- 圏域の目指す将来像に「そして帰ってきたい」を追加し、人口流失という課題に対して新たな取組の軸が加わったことは良いことだと考える。
- 圏域の目指す将来像に「そして帰ってきたい」という表現が加わって、圏域としてのメッセージ性は強いが、住民が移住を決定するまでのプロセスにはいくつかの段階や壁があり、一定の期間を要するため、そういった移住を決定するまでの過程での施策が重要ではないか。
- 大都市には大都市の魅力があるため、公共交通や情報も含め、大都市へアクセスのしやすい圏域を創るといった視点も重要ではないか。そうした取組も進めることにより、圏域の目指す将来像の「そして帰ってきたい」にもつながるのではないか。

- ・ 「郷土愛」というキーワードがあったが、地域ごとに根差した文化や歴史があるので、それを大切にしていける必要がある。東京のコピーを作るのではなく、今ある資源を上手く活用した取組を進めてもらいたい。
- ・ 「郷土愛」を若者へ押しつけるのではなく、「郷土愛」を自然に持ってもらえるような地域づくりを進めていくことが重要ではないか。

ウ その他

- ・ デジタル技術をフル活用していくことは、時代の流れからも大変重要。広島広域都市圏のオープンデータの利活用などの取組がより広く普及し、効果が現れるようになれば良いと考える。
- ・ 各自治体において、引き続き事務の共同化に取り組むことは大変重要だと考える。
- ・ ビジョンの中で、外国人材をどう活かしていくかという視点も今後重要ではないか。
- ・ 外国人にとっても魅力的な圏域であることをアピールし、日本と海外をつなぐハブとしての「広島広域都市圏」を目指していくことも必要ではないか。

(2) 計画の推進について

- ・ 県との連携強化も重要ではないか。
- ・ K P I については、達成することだけが目的とならないようにすべき。
- ・ 広島市以外の市町では、広島広域都市圏の取組を聞かない。市町間でもっと情報共有を図り、住民への P R にも力を入れるべきではないか。